

チャガ＝ロンボ語実施要領

研修言語及び研修生

東アフリカ、タンザニア連邦共和国のキリマンジャロ山麓で話されるチャガ諸語のひとつであるチャガ＝ロンボ語は、同国におよそ 120 あると言われる民族語のひとつです。他の多くのタンザニアの民族語と同様、系統的にはニジェール・コンゴ語族のバントゥ系に属し、また言語使用の面では専ら民族コミュニティの内部で話され、正書法や標準文法が定められていない土着の言語です。このような言語を学ぶにあたっては、そもそも、通常の語学講座のように、与えられた辞書や文法書を手がかりに、語彙や文法を学習していくというスタイルを取ることができません。そこで本研修では、受講生がネイティブ講師との対面調査によって、この言語の文法を導き出していくことを試みます。つまり、語学研修というよりは言語調査実習という趣の講座になります。

一日の研修のスケジュールは、大まかに前半（午前中）を語彙調査、後半（午後）を文法調査に充てます。語彙調査に必要な音声学的な知識や、チャガ＝ロンボ語の音韻論的特徴、また文法調査に必要なバントゥ諸語一般に関する形態論、統語論等に関する基礎知識は、日本人講師が解説します。これらの知識をもとに、受講生が自らの手で、それぞれの語彙集、文法書を作り出すというのが、本研修の目標とするところです。調査の手引きとして、チャガ＝ロンボ語の文法の全体像が分かるように編集した文法調査票と、バントゥ諸語を調査するうえでの必要事項をまとめた調査ハンドブックを配布し、研修後に文法書と語彙集を配布する予定です。

このような、インフォーマント・ワークに基づく研修ですので、ネイティブ講師と直接やり取りができる程度の英語ないしスワヒリ語の能力があれば役に立ちますし、とくにスワヒリ語学習の経験がある人は、バントゥ諸語に特徴的な文法構造を理解するうえでは有益です。ただ、こういった能力を前提としない形で研修を進めていきますので、予備知識がなくても心配はいりません。そのような知識はなくても、言語調査や東アフリカ地域に対する興味・関心を持っているという方の受講を大いに歓迎します。

研修期間及び研修時間

2014年8月14日（木）～ 2014年9月12日（金） 132時間

午前10時00分～午後5時30分（土曜日・日曜日は休講）

受講料 79,200円（教材費込み）

担当講師 品川 大輔
モニカ・アポリナリ

研修会場 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
（〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

チャム語実施要領

研修言語及び研修生

チャム語はベトナム中部及び南部で 10 万人、カンボジアにおいて 40 万人が話すオーストロネシア系言語です。東南アジア最古の非サンスクリット碑文の 1 つ、ドンイエンチャウ碑文（4 世紀末ごろ）以来、連綿と書き継がれて今に至る最古の言語でもあります。インド系文字であるチャム文字を使用し、サンスクリットやアラビア語、マレー語からの借用語が多いですが、表記体系は単純、文法も簡単で、比較的学びやすい言語です。インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語（タガログ語）ができる方は特に早く上達できます。

基本的に、午前中は基本会話を学び、午後は古典文学・古文書鑑賞のための教科書で文字、文法、読解を学びます。

講師は古文書読解の第一人者であるチャム族出身人類学者チュオンヴァンモン（張文門）・サカヤ博士と日本人歴史学者新江利彦がつとめ、講師二名の共著である教科書『チャム語教程』を教材として用います。読み物として、チャム族の焼き物村で生まれ育ったサカヤ博士の手記の他、奉神賛歌（ダリカル）、物語詩（アカヤット）、王家文書（スラック・ポー・パトライ）などを、ゆっくり読みます。

東南アジアの言語に関心のある方、ベトナム・カンボジア・マレーシアの歴史や文化に関心のある方、ベトナムやカンボジアのチャム族居住地での調査や業務の予定のある方にお勧めする研修です。ベトナム中部高原・カンボジア東北高地・中国海南島の他のオーストロネシア系言語（ジャライ語、エデ語、ラグライ語、回輝話など）を学ぶ上でも役に立つ言語です。

研修期間及び研修時間

2014 年 8 月 4 日（月）～ 2014 年 9 月 12 日（金） 115 時間

（土曜日・日曜日、8 月 11 日～15 日および 9 月 3 日～5 日は休講）

午前 10 時 00 分 ～ 午後 4 時 30 分

ただし、8 月 8 日、22 日、29 日、9 月 2 日、12 日は午後 5 時 40 分まで

受講料 69,000 円（教材費込み）

担当講師 新江 利彦
チュオンヴァンモン（張文門）・サカヤ

研修会場 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
（〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1）

タイ語中級実施要領

研修言語及び研修生

本研修では、東南アジア大陸部に位置し、日本と600年以上にわたる文化、貿易等の交流関係を持つタイで、共通語として用いられているタイ語の会話とタイの文化を学びます。観光やビジネスなどでタイを訪れる人が年々増えるにつれ、挨拶や片言のタイ語を話せる人も増えてきているようです。本研修は、初級タイ語ではなく、すでにタイ語の文字の読み書き、文法、そして発音の特徴などの基礎知識を持っている方に、発展的な文法事項やさまざまな表現を含む会話、および、タイ語の文章の読解を通して、旅行だけではなく、ビジネスやタイに関連する研究において役立つタイ語の能力の向上を目的とするものです。

研修は会話と読解の2つのパートに分かれます。会話パートでは正しいタイ語の発音、日常生活で実際に用いられる表現等をネイティブ講師の生の発音の聞き取りやネイティブ講師との会話を通して練習します。一方、読解パートでは、日本語による解説のもと、ネイティブ講師の発音とリズムを参考にしながら、文章読解能力の向上を目指します。

本研修で使う教材は2冊の予定です。「文法と会話」は、様々な場面における、様々な立場の男女の会話、そこで用いられる語彙、表現、文法の解説、および練習問題で構成されています。「読解」は、タイ人の生活様式、文化等についての文章と、その内容の解説、語彙の説明等で構成されています。(上記の教材では、発音符号のないタイ文字のみの表記を用います。)

上辺だけの観光では物足りない、ビジネスをよりスムーズに行いたい、タイの友人とタイ語でメールや電話のやりとりを楽しみたい、タイについての研究に役立てたい、そのためにタイ語能力を向上させたいと考える方を対象とします。タイ人講師と一緒に、あなたのタイ語を伸ばしましょう。

なお、下記の文章を、辞書を数回引く程度で、全体の内容が理解出来れば、十分受講出来ます。

ทาโรทำงานบริษัท ตอนเขาเป็นนักศึกษา เขาเคยเรียนภาษาไทย เขาพูดภาษาไทยได้ อ่านและเขียนก็ได้ เขาไปเที่ยวเมืองไทยปีละสองสามครั้ง เขาชอบอาหารไทยมาก และเขาชอบอาหารเผ็ดด้วย แต่ถ้าทานเผ็ดมาก เขาจะปวดท้อง เวลาสั่งอาหาร เขาจึงบอกคนขายบ่อย ๆ ว่า “อย่าเผ็ดมากนะ” (解答は次頁→)

タイ語中級実施要領

研修期間及び研修時間

2014年8月18日(月)～2014年9月12日(金) 120時間

午前9時00分～午後4時40分 (土曜日・日曜日は休講)

受講料 72,000円 (教材費込み)

担当講師

宮本 マラシー

村上 忠良

デンスパー・スワッタナー

トラカーンタロンサック・ターンポーン

セーリム・パンニー

ドゥアンケーオ・パオサタポーン

ラッタナセリーウォン・センティアン

ダナサーンソムバット・ジャルナン

研修会場 大阪大学箕面キャンパス

(〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1)

解答：タロウは会社員です。学生るとき、彼はタイ語を勉強したことがあります。彼はタイ語を話すことができます。読み書きもできます。彼は年に2, 3回タイへ遊びに行きます。彼はタイ料理が大好きです。そして、辛い料理も好きです。しかし、彼はとても辛い物を食べると、お腹が痛くなります。だから、料理を注文するとき、彼は店員に「あまり辛くならないようにしてください」とよく言います。

会場へのアクセス

[チャガ=ロンボ語, チャム語]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

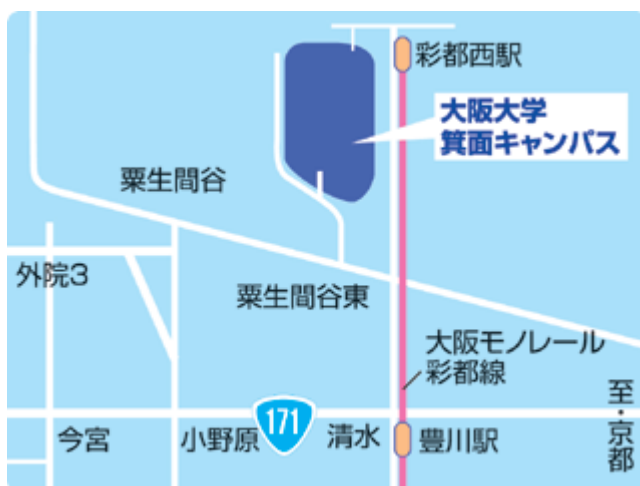


西武多摩川線多磨駅から徒歩約 5 分

京王線飛田給駅北口から京王バス「多磨駅行」に乗車, 「東京外国語大学前」停留所で下車, 徒歩約 2 分 (バス所要時間約 10 分)

[タイ語中級]

大阪大学箕面キャンパス
〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1
TEL 072-730-5111



大阪モノレール 彩都線
彩都西駅から西へ徒歩約 15 分

阪急バス

○「千里中央」駅発「阪大外国語学部前行」, 「間谷住宅行」
○「北千里駅」発「阪大外国語学部前行」, 「間谷住宅行」
「阪大外国語学部前」下車, 徒歩約 2 分
「間谷住宅 4」下車, 徒歩約 3 分